



# 夢に生きたん

Takeokadai High School  
進路指導部 第 2 号  
発行日 H30. 5. 11 (金)

## 「中間考査 いよいよ週明けから!!」～意識を変えよう～

新学年になってから1か月が経ちました。あっという間にGWも終わり、今年度最初の定期考査を迎えますが、学習サイクルや生活のリズムは確立できていますでしょうか。日々の宿題やGWの課題がたまったままの人はいませんか？スマホに振り回される生活や部活動だけで終わってしまう生活を送っていませんか？

漫然と1日を過ごすのではなく、何か小さな目標でもいいので立ててみて、それに向かって努力や我慢をしようとする意識が、充実した生活を過ごすコツです。意識が変われば行動が変わります。目標が定まることで、今何をすべきかが分かり、これから先何を続けていくべきかが見えてきます。行動が変われば習慣が変わります。将来の自分のために、今どれだけの「自己投資」ができるかということです。習慣が変われば運命が変わる!どのように優先順位をつけて、何を我慢するのか。

今やっておかないと、後で後悔しても・・・そう考えれば運命も我とともに在り!最大の命題は「今何をすべきか？」本分が学業にある以上、逃れられない現実(今は試験)を意識するにあり!



Q: あったらしいな～?  
A: 人生そんなに甘くない!



Q: 中間考査っていつから?  
A: 5月14日(月)から・・・来週じゃん!

## 「AO入試. 推薦入試とは?」～『+<sup>アルファ</sup>α』を評価してもらえるチャンス!

皆さんは、センター試験や国公立個別試験を乗り越えられるための学力をつけられるよう、日々の授業や学習に取り組んでいかなければなりません。「大学全入時代」と言われることもありますが、武台生の大半が目指す国公立大学においては相変わらず倍率は高いと言わざるを得ません。

大学入試には、「一発勝負」である一般入試とは別に、「AO入試」と「推薦入試」があります。受験資格・条件は各大学によって異なりますが、大まかに言えば、「学力+α」を評価してもらえる受験です。国公立大の「AO」と「推薦」、二つの入試システムについて簡単に示します。

	AO入試	推薦入試
評価内容	各大学の「アドミッション・ポリシー(求める学生像)」に適合しているか。	一般入試と違い、学習状況や課外活動など日頃の努力を評価する。
求められるもの	学力だけでなく、「その大学で学びたい」という受験生の意欲や熱意。高校での実績。	評定平均値に基準があることが多い(=学力が要求される)。
学校長の推薦	原則不要。	必要。(校内の推薦委員会で審議。)
選抜方法	志望理由書・調査書・小論文・面接が多いが大学によって様々である。	書類審査(推薦書・志望理由書・調査書など)・小論文・面接・口頭試問が主体。
出願時期	8月～10月でかなり早く、試験実施日が異なるので複数受験が可能である。	10月～。センター試験を課す場合があり、その場合試験は2月に実施される。
その他	AO入試に不合格の場合、推薦入試に挑戦することもできる。	国公立大の推薦は一回しか受験できない。

※AO入試, 推薦入試の内容は, 国公立大か私立大かによっても異なってきます。

# 「評定平均値?」「+αって?」～早いうちから知っておきたい入試の知識

## 〔評定平均値とは?〕

「評定」とは、定期考査の結果や授業態度、課題の提出状況などをもとに総合的に評価したもので、通知表に載っている「5・4・3・2・1」のことです。

1年次から3年次のすべての科目の評定の合計数をすべての科目数で割って、小数点以下第2位を四捨五入して求めた数値が3年間の「評定平均値」となります。3年生の場合は1学期末に出される仮評定が使用され、出願時に提出する「調査書」に記載されます。この調査書は一般入試を含む、すべての受験で必要な書類です。

A	5.0 ~ 4.3
B	4.2 ~ 3.5
C	3.4 ~ 2.7
D	2.6 ~ 1.9
E	1.8 ~

また、評定平均値は左記のように A~E の5段階で成績概評として示されます。

AO入試や推薦入試の出願条件として、成績概評 A 以上を求める大学も少なくありません。学校長が特に優れていると認めた場合は◎をつけることができますが、その◎を条件とする大学もあります。

評定は前述の通り、定期考査の結果や授業・課題の取り組み状況がもとになります。言わば「毎日の積み重ね」の証です。気を抜い

てもよいテスト、適当にやってもよい課題なんて一つもないんだということを心に留めて、毎日の学習に励み、1回1回の考査を大事にしましょう。まずは、新年度スタートの中間考査に全力を尽くしましょう。

## 〔「+α」って何だろう?〕

AO入試や推薦入試では、受験生の学力だけでなく、それ以外の部分(+α)を評価し、合否の判断材料としています。その時に重視されるのが先にも述べた「調査書」です。

調査書には、その生徒がどういう学校生活を送ってきたかが分かるよう、成績以外にも出欠状況、特別活動の記録などが細かく記載されます。部活動や生徒会活動、検定の取得など、様々なことに取り組みば取り組むほど、記載内容は増えることとなります。逆に、特に何も取り組んでいなければ、調査書に何も書き込めず、空欄のままとなります。AOや推薦では、調査書の内容をそのまま点数化したり、面接時の参考資料としたりするので、調査書の記載が豊富な受験生ほど有利になるというわけです。

学力以外として、以下のようなことが挙げられます。

- 部活動での実績
- 生徒会活動（執行委員、専門委員会など）
- 校外のコンクール・コンテスト等の入賞実績
- 継続的なボランティア活動、自発的なボランティア活動
- 総合的な学習の時間などで取り組んだ課題研究やそのレポート
- 高校時代に取得した検定・資格（英検や漢検、全商検定など）
- インターンシップや国際交流などの諸活動

調査書は、後からの書き換えなどはできません。低学年のうちから充実した高校生活を送ることが、そのまま調査書の充実につながるのです。そのためにも、レポート・感想文・賞状・証明書などはポートフォリオ用のクリアファイルを利用してしっかり保管しておきましょう。

## 「自己管理ができる人になろう」

入試で問われている隠れたテーマは「自己管理能力」だと思います。自己管理とは、自分の弱い部分を知り、周囲に振り回されないようにすることです。プロ野球のイチロー選手は、精神力が強いのではなく、この自己管理能力が高いのだそうです。自己管理術の一つとしてルーティンが挙げられます。起床時間や就寝時間、勉強時間などを固定し毎日同じことを繰り返していると、わずかな違いに気づき、自分で調整することができるようになります。